

A案・B案の財政差は『建設費』より『人とサービス』

新しい中央図書館は、羽ノ浦・那賀川を図書館として残しても、同じ補助で建設できます。

両案とも
ほぼ同じ

中央館の建設費

約40億円

国の支援後の市負担

約11億円

羽ノ浦・那賀川の長寿命化

どちらも必要

中央館への国補助等は最大約29億円。長寿命化は建物を使い続ける限り必要です。

違うのは、2館の使い方と運営体制

A案 | 市の現計画

中央館 + 読書テラス2館 年間 約2億5,240万円

- ・羽ノ浦・那賀川の司書・職員を15人削減
- ・長寿命化に『機能転換工事』が上乘せ
- ・中央館への集約で、追加の職員が必要になりうる

B案 | 守る会案

中央館 + 図書館2館 年間 約3億4,680万円

- ・羽ノ浦・那賀川の蔵書・司書サービスを維持
- ・既存を活用し、原則は長寿命化工事のみ
- ・中央館とは別事業にし、別補助を組み合わせる余地

市の試算差 年 約9,440万円

ほぼ職員15人分の人件費。A案の中央館増員を見込むと、実際の差は0～9,440万円に縮みます。

結論 | 『財源がないか』ではなく、『地域の図書館サービスをどこまで残すか』という政策判断です。